



聞いてきました まちの声

表紙によせて VOL. 8

相良矢工房 代表 相良 弘 氏

八女市本町で相良矢工房を営む相良代表を訪ねてお話をお聞きしました。今年10月に第1期「矢作教室」をスタートし、羽根割、羽根付け等伝統の技をひとつひとつ丁寧に教えて、美しい八女矢の作り方を伝える活動に着手されました。伝統技術を伝承していく姿勢には、八女矢に対する強い思いと使命感を抱かされました。

八女矢の歴史についてお聞かせください。

八女矢は、1752年有馬藩お抱えとなった矢師が、豊富な矢竹に恵まれている八女市に居を構えたことに始まったようです。最盛期は、全国生産量の30%を占め日本一を誇っていました。

また、私の相良家系図によりますと、1758年肥後・人吉の相良藩から立花藩のお抱えとなり、やがて八女の地に移ったようです。

八女矢制作における特徴など教えてください。

調達した矢竹は同じ太さ、重さにしますが、曲がり無くし真つすぐにする「荒矯め」という工程は特に技術を要します。矢羽はタカやワシが最高級ですが、現在は捕獲禁止のため保存しているものを大切に使用しています。近年は、七面鳥、水鳥、孔雀等の羽根が使われています。八女矢の工程全てが手作業で、伝統の技法と経験で作ることが特徴です。

事業について現状と目標をお聞かせください。

拡販策として、インターネット販売に手掛けています。また、縁起物、装飾品として飾り矢のバリエーションを増やしています。

ヨーロッパでは弓道を見直して武道の一環として捉えていますし、中国にも少しずつ浸透しています。このような状況から、海外進出を目標に取り組みたいと考えています。

市議会にメッセージをお願いします。

子どもを育てやすい環境を更に整備してもらうことが一番の願いです。例えば、子どもたちを対象にしたイベントを企画する等、思い出をたくさん作っていただければと思います。



議会を傍聴しませんか？ 次回定例会

2月22日(火)予定

立花庁舎議場 午前10時から

八女市議会事務局 23-4922



スマートフォンやタブレット端末で
議会中継を見ることができます

<http://www.city.yame.fukuoka.jp/shisei/12>
インターネットから「八女市議会」を検索
「議会インターネット中継」をクリック！

編集後記

「コロナ感染症により、私達の生活は一変し、混乱は二年以上に及び予算編成も大きく様変わりした。他国に比べれば、日本の感染者は抑えられている。

多くの人は利己と利他の両方を考えて、窮屈に耐えながらマスクをつけている。感染収束のカギは利他心である。

大坪 久美子

発行責任者

議長 角田 恵一

議会だより編集委員会

委員長 高橋 信広

副委員長 大坪久美子

委員 松崎 辰義

委員 栗原 吉平

委員 牛島 孝之

委員 堤 康幸

委員 川中 栄一

委員 高山 正信

